

佐久市議会議員 議会報告

高柳 ひろゆき 通信

発行 高柳 ひろゆき後援会事務所 佐久市塩名田 558-6
電話 0267-58-4367 携帯 090-4613-0021
メールアドレス shionada5586@ybb.ne.jp



●ご挨拶

新時代の令和が始まりました。

平成は、戦争こそ無い平和な時代でしたが、多くの自然災害が発生し、また凶悪な事件が後を絶つことなく、経済も停滞し閉塞感に満ちた時代でした。令和という時代が、希望に満ち溢れた時代になる事を心から祈念し、私も新たな気持ちで、折り返しの2年、様々な事にチャレンジしてまいる所存です。皆様方の変わらぬご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。さて、今回の通信は、平成31年度第1回定例会議（2月22日～3月22日の29日間）で議決された主な当初予算の内容や、地域での活動についてご案内申し上げます。

●本年度の一般会計予算が可決されました！！

予算は対前年15億円増の468億円で可決されました。自主財源の合計額は、約214億円、予算に占める割合は、45.8%です。性質別に見ますと、普通建設費が約9億7,000万円と突出し対前年約8億1,600万円増となっています。

注目すべきおもな建設費予算

- ① 創錬の森整備事業（県立武道館等整備事業） 建設負担金・多目的運動場整備事業・周辺道路改良工事に約14億円
- ② 社会体育施設整備事業 佐久市総合体育館の改修工事・浅科多目的屋内運動場等の照明設備改修に約6億4,000万円
- ③ 佐久平駅南土地地区画整理事業 土地地区画整備事業補助金・公共施設管理者負担金・幹線道路工事に約6億1,000万円
- ④ 防災行政無線同報系設備デジタル整備事業 防災行政無線同報系のデジタル化整備に約4億2,000万円
- ⑤ 佐久総合運動公園整備事業 クロスカントリーコースの整備・遠路整備・第2駐車場整備に約4億円
- ⑥ 臼田総合運動公園整備事業 臼田総合運動公園多目的広場等の改修に約3億7,000万円

合併による有利な合併特例債は、約15億円を残し2020年度で終了します。道路や橋梁、公共施設を維持管理するのに必要な将来費用は、年間約76億円係ることが佐久市公共施設マネジメントで説明されています。

今後は、いかに自主財源を増やし、予算編成を慎重に計画することが、行政の喫緊の課題となってまいります。

気になる新規事業と予算

- ① 部活動指導員配置事業 教員の勤務時間軽減や部活動顧問の競技未経験による精神的負担の軽減を目的に、各中学校に外部より、中学での部活動指導経験者、または公認の指導資格や、教職の免許を持った指導員1名を受け入れとして約260万円。スポーツ種目については学校の希望を優先します。
- ② 佐久鯉等消費拡大事業 佐久市の特産物である鯉は、鯉こく、甘煮、あらいで食されていますが、新しい調理方法として低温熟成の鯉の刺身を発案し、佐久の名物として市内外で宣伝強化に努め消費拡大を目指します。約260万円
- ③ 風しんに関する追加的対策事業 昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性に対する、抗体検査・予防接種の実施として約1800万円 対象者には通知があります。
- ④ ブロック塀等撤去支援事業 安全性の確認のできないブロック塀の撤去、改修等工事に対する支援として約380万円

●地域での活動

道の駅ヘルシーテラス佐久南から野沢方面に右折する信号機が2月下旬から作動開始しました。下平地域在住の知人で、地域の交通安全活動に熱心な方より、中部横断自動車道が八千穂ICまで延伸した事で、高速道路から道の駅に進入する車両が多く、野沢方面に右折する場合難儀しているのご相談いただき、昨年11月下旬に地元の区長さんと3名で市役所の生活環境課に伺い、右折信号設置の必要性をお願いした事により早期に実現しました。



(佐久南IC入口付近)

下記内容の一般質問を行いました

① 交通安全対策について

(高柳) 交通死亡事故多発非常事態宣言に至った経過は。

(山崎環境部長)

昨年は、1月から12月の1年間で4名の方が交通事故でお亡くなりになりましたが、今年1カ月の間に3名の方がお亡くなりになると言う危機的状況下であり、これ以上悲惨な交通事故が起きないように、佐久市交通安全条例に基づき佐久市交通安全対策協議会を開催し、同協議会での本宣言発令についての採択を受け、発令をしました。

(高柳) 非常事態宣言の発令期間と周知方法は。

(山崎環境部長)

発令期間は、新年度に入ってから新入学児童を守る点から5月10日の春の交通安全運動が始まる前までです。周知方法は、多くの市民の皆様にご覧いただくため2月22日と24日の両日の朝に防災行政無線でお知らせし、市ホームページ、SNSへ掲載した。今後更に佐久ケーブルテレビ、エフエム佐久平において周知を図った。

また、保育園、小、中学校、児童館については、宣言の趣旨を徹底するとともに、庁舎や各支所の入り口に、のぼり旗や看板で周知を行っている。今年度の交通死亡事故の特徴は、高齢者が被害に遭う事故が発生しているため、夜光反射材を約1万本調達して、老人クラブ等の講習時や高齢者世帯訪問時に配布し着用方法を説明します。また他本庁舎および各支所にも反射材を置き希望者へ配布するとともに、宣言に伴う交通事故防止啓発チラシの全戸配布をする予定です。

(高柳)

交通死亡事故は被害者側の場合、深い悲しみや心の傷を負います。また加害者の場合、一生をかけて罪の償いをしなくてはなりません。私も、今回被害者の家族となり、交通事故の痛ましさを痛感いたしました。車は走る凶器です。運転時には交通に十分気をつけていただく事を節にお願いします。

② 小海線を利用した地域の活性化について

(高柳) 小海線の利用状況と活性化に向けた取り組みは。

(茂原経済部長)

小海線は通勤や通学等の地域の生活路線として利用されているほか、高原列車として首都圏や中京圏から観光で訪れる多くの皆様に利用され、平成19年日本で初めてのハイブリッド車両E200系を導入するなど、先進的な取り組みが行われ、また平成29年7月には、全国6社JRとタイアップした大型観光キャンペーン「信州ディステーションキャンペーン」に併せて、天空に一番近い列車をコンセプトに「HIGHRAIL1375」が運行開始しました。

この列車は、運行から1年半が経過する中で、乗客は3万人を突破し、乗客の60%以上が首都圏からの旅行客で、あの将棋の最年少プロ棋士の藤井聡太7段も乗車されたようです。市としても乗客へのおもてなしとし、特産品のプルーンや甘酒など振る舞いPR活動をしました。引き続きJRと連携し佐久市の魅力発信と小海線の利用促進に努めてまいります。

(高柳) 沿線自治体との広域連携が必要ですが、具体的な取り組みは。

(茂原経済部長)

広域的な観光振興は極めて重要であるので、昭和61年7月「小海線沿線地域活性化協議会」が設立されています。本協議会は、長野・山梨両県・小諸市から北杜市までの沿線市町村並びに観光協会、商工関係団体、観光事業者、東日本旅客鉄道株式会社をはじめとする公共交通事業者等により組織され、佐久市並びに佐久市観光協会も加盟しています。協議会では、ホームページ「小海線ファンサイト」による情報発信、パンフレットの作成、ラジオ等によるメディアでの配信、首都圏等主要駅における誘客PRなどを沿線自治体を中心となり、官民連携で活動を実施しています。小海線沿線地域の活性化は、沿線市町村をはじめ様々な連携が肝要です。外国人旅行者の増加傾向を踏まえ、専用ホームページの多言語化など、事業に工夫を凝らし、小海線沿線地域の広域的な観光振興を図ってまいります。



(ハイブリッド車両E200系)

前回第7号文中で誤植がありましたので訂正の上お詫び申し上げます。誤って繰越免許費と掲載→正しくは繰越明許費です。

※皆様のご意見、ご要望をお気軽にお寄せ下さい！！電話 0267-58-4367 携帯 090-4613-0021